

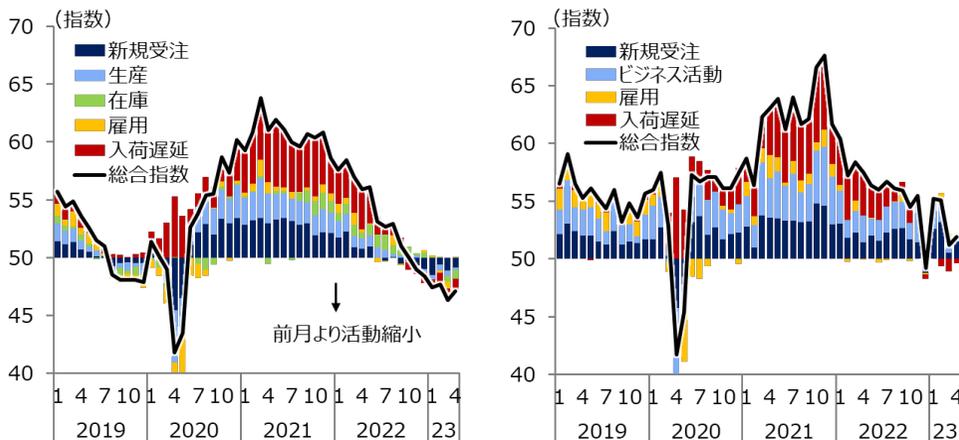
米国

ISM景況指数 (2023年4月)

# コスト高が長期化する中で需要減少、企業収益を圧迫

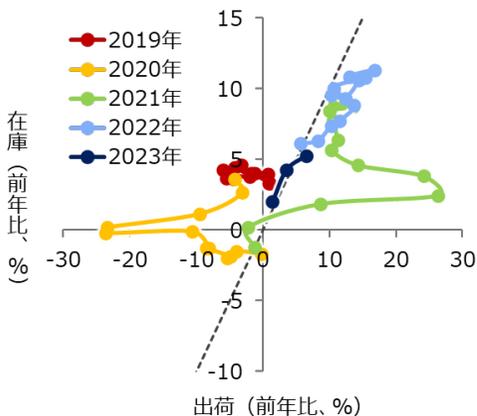
政策・経済センター  
田中高大  
03-6858-2717

## 1 ISM景況指数 (左: 製造業、右: 非製造業)



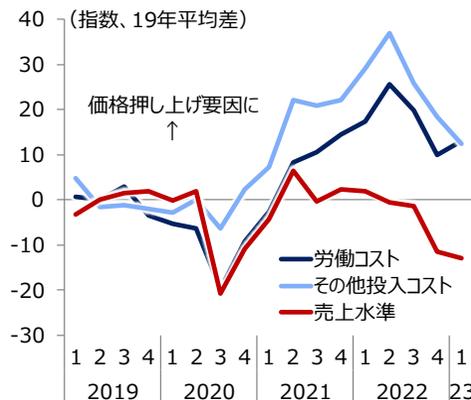
注: 調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。  
出所: Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

## 2 在庫・出荷水準 (製造業)



注: 直近は23年3月。  
出所: 米国国勢調査局より三菱総合研究所作成

## 3 今後1年で、各要因が自社製品・サービスの価格に与える影響



注: アトランタ連銀管轄地区内の企業が対象。  
出所: アトランタ連銀より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 23年4月のISM製造業景況指数は47.1と、前月から上昇したものの、経済活動の拡大・縮小の境目である50を6カ月連続で下回った。非製造業は51.9と、4カ月連続で50を上回っているものの、19年平均 (55.5) を下回るなど、均してみれば低下傾向が鮮明になっている (図表1)。
- 製造業の項目別では、新規受注・生産・入荷遅延・在庫が50を下回って推移しているほか、サブ項目の仕入れ価格は53.2と、22年7月以来の高水準となり、インフレ圧力が再び高まったことを示唆した。
- 非製造業の項目別では、供給制約の緩和によって、入荷遅延が50を下回って推移しているほか、ビジネス活動が20年5月以来の低水準となった。サブ項目の仕入れ価格は59.6と、6カ月ぶりに前月を上回り、依然として高水準にある。

### 基調判断と今後の流れ

- 米国の企業活動は、製造業が引き続き縮小していることに加え、非製造業も軟化傾向にある。先行きも、企業活動は軟調な動きとなろう。特に、製造業では、世界経済の減速本格化に加え、21年以降積み増してきた在庫を調整する動きが進んでおり (図表2)、企業活動の大幅な改善は見込みにくい。
- また、企業担当者の声を見ると、「投入コストが低下したにもかかわらず価格を高く据え置いている企業は、価格を調整する企業にビジネスを奪われる可能性がある (宿泊・飲食サービス)」「最終消費者から価格転嫁に対する抵抗がはじまっている (飲食料・タバコ製品)」といった声が聞かれたことは、注目に値する。インフレ圧力の強まりに対して、これまで米国企業は積極的に価格転嫁を進めてきたが、長引く物価高と、景気減速の中で、価格転嫁力は弱まり始めている。
- アトランタ連銀の企業向け調査によると、投入コストは今後も高止まりし、コスト面から販売価格の上昇圧力となると予想が引き続き多い一方、売上水準 (需要) については減少し販売価格の押し下げ要因となるとの見方が増加している (図表3)。コストプッシュ上昇は緩和されつつあるとはいえ、需要も弱まっており、価格転嫁が難しくなれば、企業収益の圧迫要因となる。